

自死遺族の想いを伝えるパネル展

第36回「私の中で今、生きているあなた」

In岩手

2013年9月11日から14日岩手県民会館第1展示室

(午前10時から午後5時まで盛岡市内丸13-1)

断絶を抱きしめる

阪神大震災・東北の津波 見た人、見なかった人

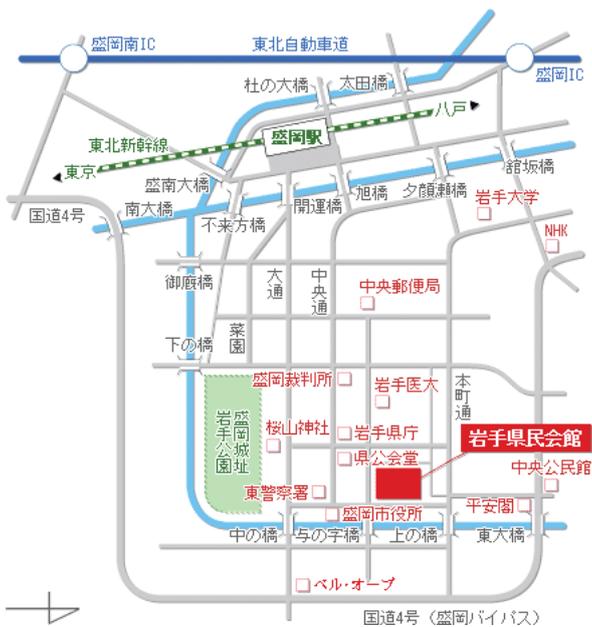
広島・長崎の原爆 知っている人、知らない人

沖縄戦と基地 知ろうとする人、しない人

日本の自死 気づく人、気づかない人

断絶はあまりにも大きい

各地の自死遺族グループ代表も参加します



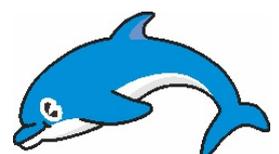
岩手県民会館019-624-1171

2012年3月3日
(24歳)の命日
寺尾礼さん



(岩国市民会館展示室)

孫を見つめる



悲しみが湧くときは、亡き人の声に耳を澄まそう

悲しみが湧くとき、亡き人が、ささやきはじめる。
先に逝ったあなたに、生きているときと同様に接するなら、
あなたの尊厳は回復され、
耳を澄ませば、
あなたは生きて語りだす。
私は、あなたと手を携えて歩み始める

私たちはこの地球上で生まれ、
やがて新しい生命の誕生と交代するように退場する。
この地上にいつまでも居ることはできない。
今生きているすべての人が、
明日は死ぬかもしれない「未来の死者」なのだ。
だが「死に方」は社会の在り方を反映して多様となる。
乳幼児で亡くなる
戦争で亡くなる
原爆で亡くなる
津波で亡くなる
自死する
「死に方」は社会の実態をあぶりだす。



いじめは被害者問題であり、加害者問題でもある。
いじめは加害者を生み出す社会のゆがみを照らし出す。
心の傷で考える力、生きる力が奪われ死に追い詰められることは、
誰にでも起こりうる。

今、社会に何が起きているのか。

耳を澄ませば、先に逝ったあなたの、ささやきが聴こえてくる。
亡き人の声を聴く小さな旅は、
残された人に、どんな変化を起こすのだろうか